



飲食店主や料理人ら42人がつづった感謝のメッセージを受け取る看護師たち
(京都市山科区・洛和会音羽病院)

コロナ禍 苦境だが「医療現場もっと大変」

飲食店主ら病院応援

山科メッセージボード作る

新型コロナウイルス患者の対応にあたる医療従事者に感謝の思いを伝えようと、京都市山科区の飲食店主や料理人たちがメッセージボードを作り、洛和会音羽病院(同区)に贈った。

「医療現場はもっと大変」との思いを形にした。ボードは山科駅近くで店を構える飲食店や企業が中心となり、42人が作った。「命を守ってくださいありがとうございます」などのメッセージを手書きし、色鮮やかに折り紙の飾りを添えた。

21日、代表者2人が同病院を訪れ、院長らにメッセージを手渡した。居酒屋を営む奥村正晴さん(47)は、緊急事態宣言の解除後も客足が戻らないといい、「最前線で戦っている医療職の方に感謝し、自分たちも前向きにやっていきたい」と力を込めた。

ボードを受け取った看護師山本美優さん(21)は「たくさんの方がメッセージをくださり、活力になります」と笑顔で話した。(森静香)